

## II. 三町の概要

### 1. 位置・地勢

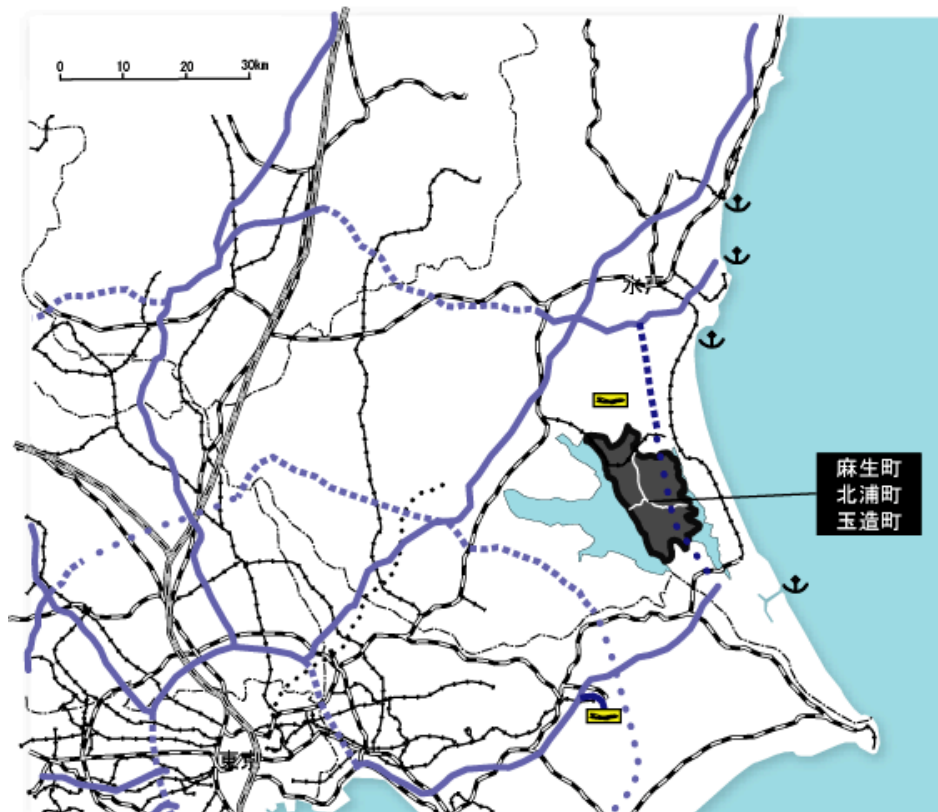
麻生町・北浦町・玉造町は、茨城県の東南部にあり、東京都心から約 70km、県都水戸市から約 40km の距離に位置しており、三町合わせると東西約 12 km、南北約 24 km、面積は、166.33 km<sup>2</sup>となります。

北は鉾田町と小川町、南は潮来市に隣接し、東は北浦、西には霞ヶ浦（西浦）があります。地形的には東西の湖岸部分は低地、内陸部は標高 30m 前後の丘陵台地（行方台地）により形成されています。霞ヶ浦沿岸部は概ねなだらかで連続的な稜線であるのに対し、北浦側は比較的起伏に富んでいます。

また、霞ヶ浦湖岸の一部は水郷筑波国立公園に指定されており、美しい自然景観を有しています。

今後は、東関東自動車道水戸線や百里飛行場の民間共用化が計画されており、広域的なポテンシャルが飛躍的に向上することが期待されています。

図 II - 1 - 1 三町の位置



---

## 2. 三町のなりたち

---

### (1) 麻生町

---

江戸時代は、麻生藩の陣屋町として栄え、現在の町域は麻生藩領のほか、幕府領や水戸藩領、旗本知行地が複雑に入り組んでいました。

明治 22 年の市制町村制施行時には、行方郡麻生町（麻生・粗毛・富田の 3 か村）・小高村（橋門・小高・井貝・南・島並の 5 か村）・行方村（船子・五町田・於下・行方の 4 か村）・太田村（根小屋・矢幡・石神の 3 か村）・大和村（白浜・杉平・籠田・宇崎・青沼・小牧・岡・蔵川・天掛・四鹿・板峰・新宮の 12 か村）が誕生しました。

昭和 30 年にこれら 1 町 4 か村（麻生町・小高村・行方村・太田村・大和村）が合併して現在の麻生町が誕生しました。

### (2) 北浦町

---

江戸時代は、水戸・江戸を結ぶ水運の要地として栄え、現在の町域は麻生藩領、松川藩領、石岡藩領、旗本知行地となっていました。

明治 22 年の市制町村制施行時には、行方郡津澄村（繁昌・吉川・山田・中根の 4 か村）・要村（南高岡・北高岡・小幡・行戸の 4 か村）・武田村（小貫・次木・両宿・内宿・長野江・成田・三和の 7 か村）が誕生しました。

昭和 30 年にこれら 3 か村（津澄村・要村・武田村）が合併して北浦村が誕生し、その後、平成 9 年に町制施行し北浦町となりました。

### (3) 玉造町

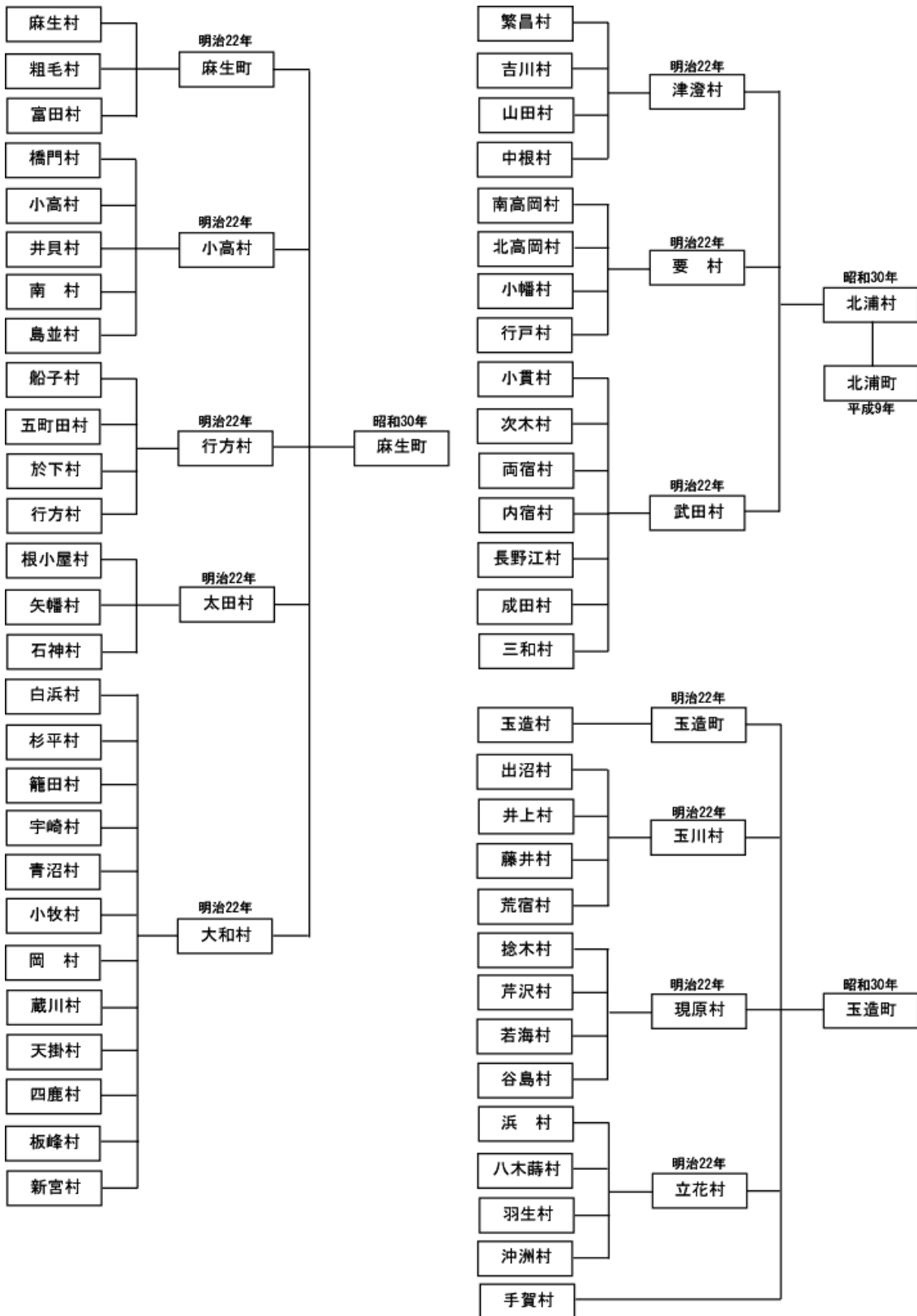
---

国府（石岡）と鹿島神宮を結ぶ要地として、また、霞ヶ浦の水運の要地として栄え、江戸時代になると、現在の町域は水戸藩領、麻生藩領、旗本知行地として分割支配されていました。

明治 22 年の市制町村制施行時には、行方郡玉川村（出沼・井上・藤井・荒宿の 4 か村）・現原村（捻木・芹沢・若海・谷島の 4 か村）・立花村（浜・八木蒔・羽生・沖洲の 4 か村）が誕生し、玉造村は単独で玉造町となり、手賀村は 1 村のままで存続しました。

昭和 30 年にこれら 1 町 4 か村（玉造町・玉川村・現原村・立花村・手賀村）が合併して現在の玉造町が誕生しました。

図Ⅱ－２－１ 三町のなりたち



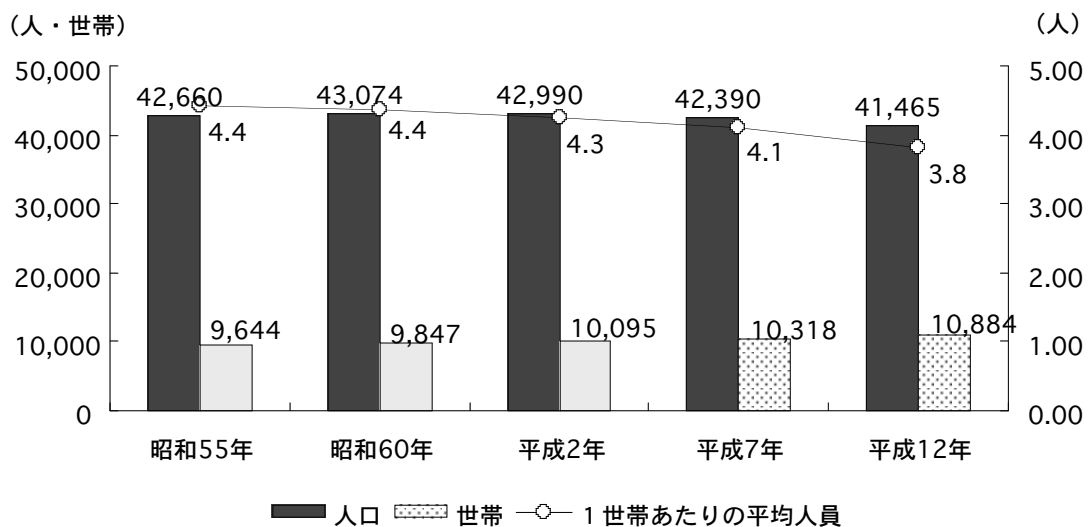
### 3. 人口・世帯の動向

#### (1) 人口・世帯の推移

三町全体での人口の推移をみると、昭和 60 年の 43,074 人をピークに現在まで緩やかな減少が続いています。

一方で、世帯数は昭和 55 年以降一貫して増加を続けているため、1 世帯あたりの平均人員は減少傾向を続けており、核家族化の進行がみられます。

図Ⅱ-3-1 人口・世帯数・1世帯あたりの平均人員の推移



資料/国勢調査

表Ⅱ-3-1 人口・世帯数・1世帯あたりの平均人員の推移 (町別)

	S55	S60	H2	H7	H12	
麻生町	人口	18,155人	18,120人	17,774人	17,286人	16,587人
	世帯	4,114世帯	4,125世帯	4,139世帯	4,144世帯	4,345世帯
	1世帯あたりの平均人員	4.4人	4.4人	4.3人	4.2人	3.8人
北浦町	人口	10,954人	11,141人	11,107人	10,920人	10,938人
	世帯	2,381世帯	2,425世帯	2,474世帯	2,561世帯	2,792世帯
	1世帯あたりの平均人員	4.6人	4.6人	4.5人	4.3人	3.9人
玉造町	人口	13,551人	13,813人	14,109人	14,184人	13,940人
	世帯	3,149世帯	3,297世帯	3,482世帯	3,613世帯	3,747世帯
	1世帯あたりの平均人員	4.3人	4.2人	4.1人	3.9人	3.7人
合計	人口	42,660人	43,074人	42,990人	42,390人	41,465人
	世帯	9,644世帯	9,847世帯	10,095世帯	10,318世帯	10,884世帯
	1世帯あたりの平均人員	4.4人	4.4人	4.3人	4.1人	3.8人

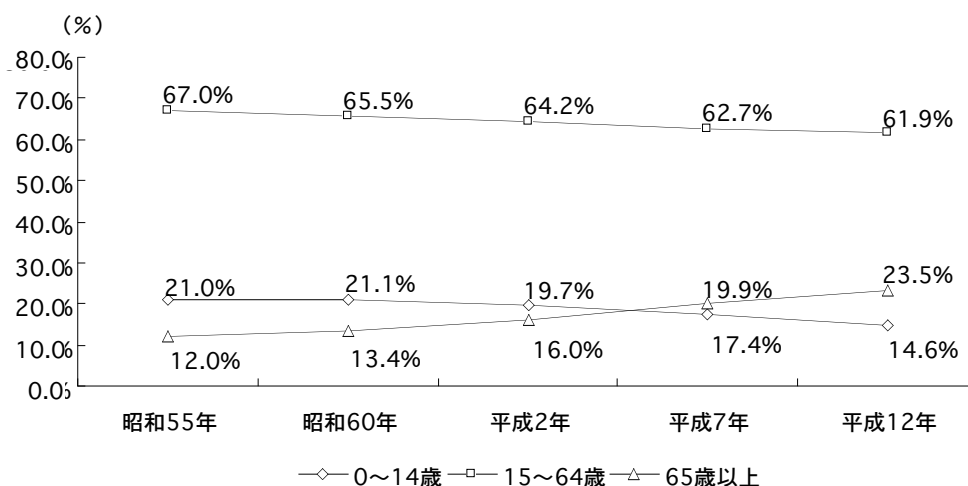
資料/国勢調査

## (2) 年齢別人口の推移

三町全体で、年齢別に昭和 55 年からの人口推移をみると、高齢人口（65 歳以上）割合が増加し続けている一方で、年少人口（0～14 歳）、生産年齢人口（15～64 歳）は減少しています。

さらに、平成 12 年時点では、高齢人口は 20%を超えており、全国（17.4%）、茨城県（16.6%）と比べても、地域の高齢化が進んでいる状況がうかがえます。

図 II - 3 - 2 年齢別（3 階級）人口の推移

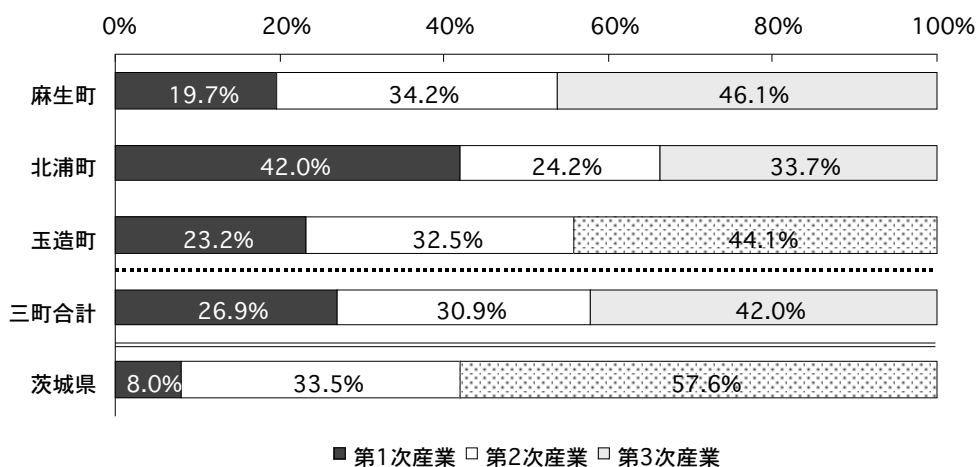


資料／国勢調査

## (3) 産業別人口

三町全体で、平成 12 年の産業別就業者人口をみると、第 1 次産業従事者の割合が、茨城県全体に比べ大幅に大きくなっており、農業の占めるウエイトが他の地域よりも高くなっていることがうかがえます。

表 II - 3 - 2 平成 12 年の産業別就業者人口



資料／国勢調査